

電光空手打ち (1956)

メディア 映画

ジャンル アクション 青春 格闘技

製作国 日本

色彩 B&W

時間 59分

初公開日 1956/01/29

【解説】

牧野吉晴の小説『空手風雲録』をもとに「億万長者」で助監督を務めた小林大平が脚本を書き「東京魔天街」の津田不二夫が監督した。撮影は「力闘空手打ち」三部作の福島宏、音楽は「悪の報酬」の大久保徳二郎がそれぞれ担当。高倉健の映画デビュー作として知られる。続編「流星空手打ち」も同時期に公開された。

大正時代の沖縄。知倒流唐手の忍勇作は一門のライバルである名越義仙に勝負を挑むが、その強さと大きさに圧倒され、師範の中里東恩に別れを告げ名越一門への弟子入りを請う。義仙が東京で行われる東京大正博覧会で空手を披露する沖縄代表に選ばれたことを知り、東恩は沖縄県知事に代表選手となるための試合を開催してほしいと頼むが取り合ってもらえない。沖縄唐手界の重鎮である湖城空典にも相談するが、逆に卑怯なことはするなと叱咤されてしまう。東恩の弟子である師範代の赤田鉄才は空典に闇討ちをしかけて傷を負わせ、さらに義仙と勇作にも襲いかかるのだった。

【クレジット】

監督 津田不二夫

企画 光川仁朗

原作 牧野吉晴

脚本 小林大平

撮影 福島宏

美術 中村修一郎

音楽 大久保徳二郎

出演 高倉健

浦里はるみ

日野明子

波島進

神田隆

山形勲

小川虎之助

佐々木孝丸

藤里まゆみ

北峯有二

加藤嘉

岩城力